科目名	終末期を生きる人々への看護	対象学年・時期	２年・後期
講師	専任教員	単位数・時間数	1単位・３０時間
講義概要	ディプロマポリシー１、２、３に基づく。 終末期を生きる患者およびその家族は療養生活の過程で、身体的・心理的・社会的・霊的な苦痛を抱える。このような患者や家族のQOL維持・向上を目指した看護を実践するためには、患者や家族に対して受容的・支持的態度で関心を寄せ、終末期医療に関する基礎的知識と基本的な援助方法を習得する必要がある。ここでは、全人的な視点からの対象理解を基盤とし、終末期を生きる人々を発達段階の特徴から捉え、緩和ケアや症状マネジマント、グリーフケアについて教授する。併せて、超高齢多死社会を迎える日本における「死」の概念についても考えられるようにする。人間は常に成長・発達を続ける存在であり、死もまた成長・発達の一つの形態であるといえる。死は人間の自然な営みとして生の延長線上にあるため、患者が1人の人間としていかに生き、どのように生活を送ってできたかという過程や価値観が凝縮される時でもある。そのため死にはさまざま形があり、それぞれに意味があることが分かり、尊厳あるその人らしい最期を迎えるための意思決定支援の重要性について理解できるようにする。		
講義形態	講義　演習		
学習目標	１．終末期にある対象の特徴がわかる。 ２．全人的苦痛の理解と苦痛緩和に向けた援助ができる。 ３．対象を支える家族の役割がわかる。 ４．対象の意思決定支援における家族及び多職種連携の実際がわかる。 ５．対象の尊厳を守る看取りのありかたがわかる。 ６．残された人々へのケアのありかたがわかる。 ７．死生観が深められる。		
学習内容 （授業計画）	１回目　終末期とは　対象理解 ２回目　症状の理解 ３～４回目　ACPディスカッション ５回目　QOLを高める援助　全人的苦痛の緩和への援助 ６～９回目　対象への看護展開 10回目　臨終における看護　看取りの援助 11回目　人生の最後まで自宅で過ごすを支えるケア① 12回目　人生の最後まで自宅で過ごすを支えるケア② 13～14回目　子どもや胎児の終末期を支える 終末期の子どもの特徴 子どもの死についての捉え方		
使用テキスト	ナーシング・グラフィカ　緩和ケア　メディカ出版 その他、各看護学概論のテキスト、基礎看護技術のテキスト		
事前学習・ 事後学習 （学習を促進できる学修）	臨床薬理学、臨床心理学、病態治療論、治療総論、心理学、家族関係論、社会学のテキストや資料を活用して学習を進めて下さい。 事前学習・事後学習は適宜指示します。		
評価基準と 評価方法	筆記試験（50%） 課題への取り組み（50%）		
備考			